

発生予察による病害虫防除

病害虫防除所

病害虫防除所では農作物の病害虫の被害を的確に防ぐため、発生予報と防除対策の指導・助言を行っています。

病害虫発生調査の実施

- 現地圃場の巡回調査(150ヶ所)
- 予察灯(誘蛾灯)調査(9ヶ所)
- 性フェロモントラップ調査(19ヶ所)
- 果樹カメ誘引トラップ調査(5ヶ所)
- 果樹カメムシ越冬調査(40ヶ所)
- アブラムシ類粘着トラップ(3ヶ所)
- 麦赤かび病胞子飛散調査(2ヶ所)
- 広域調査(水稻、果樹、野菜)



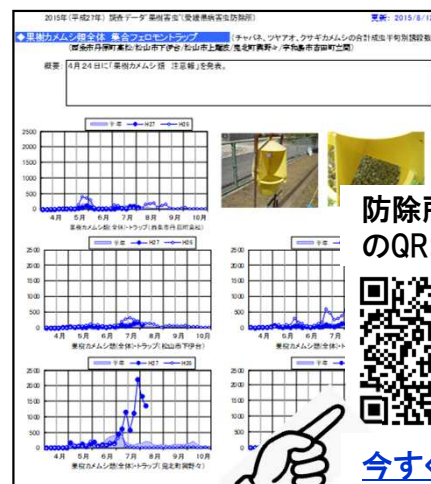
病害虫発生予察情報を毎月、農協等関係機関にメールで配信

気象予報等を加味

5種類の予察情報を提供しています。

- 発生予報**: 毎月初めに発表
- 防除技術情報**: 発生予報を補完
- 警報**: 重要病害虫が大発生
- 注意報**: 重要病害虫が多発生
- 特殊報**: 新規の病害虫が発生

防除所のホームページで各種の調査結果を公開しています。



防除所URLのQRコード



今すぐスマホで検索!

病害虫防除対策の指導・助言

病害虫防除の専門機関として、農協や生産部会などに防除対策の指導・助言をしています。



病害虫の生態や防除方法を解説

今、県下で問題となっている病害虫

病害虫防除所

防除が難しく、現在、問題となっている病害虫。

ミカンバエ

- 日本の在来種であり、**カンキツ類に寄生**する。果実の完全着色後も**幼虫が内部に生息**し、外観上非寄生果と見分けがつかない。



果実に産卵中の成虫

果肉を食害中の幼虫

キウイフルーツ

かいよう病Psa3型

- 完全治癒は難しい。特に感染力の強いPsa3型は**検定による診断と被害部の除去を徹底**し、**拡散防止に努める**。



葉に発生した病斑

漏出した赤褐色樹液

ビワキジラミ

- 東予東部地域のビワで**新害虫**として確認された。**分布域が拡大**しており、**経済栽培地域への侵入が危惧**される。

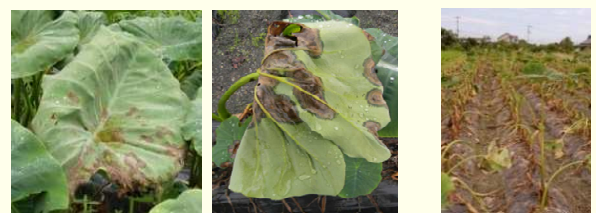


果実に発生した「すす病」

成虫(体長4mm程度)

サトイモ疫病

- 夏期から秋期に発生し、葉では**灰褐色で円形斑点**、茎では**黒色のシミ状の斑点**が発生して**早期に枯死**する。**伝染力が強く**、**風雨によって短期間にまん延**する。



葉に発生した斑点

まん延した圃場

サツマイモ基腐病

- 本県ではR3に初確認された。発病すると、**株の基部が暗褐色～黒色に変色**して**地上部が枯死**し、**塊根は首側から腐敗**する。**健全な苗・種芋の利用**を行い、**発病が確認された場合は、薬剤等による防除が必要**となる。



茎に発生した病斑

塊根の腐敗

その他、スクミリンゴガイ、イチゴのハダニ類、薬剤抵抗性対策等が直近の課題です。

「トマトキバガ」を県内で初確認

病害虫防除所

令和4年4月、トマト、ピーマンなどナス科植物の重要害虫であるトマトキバガが、中予地区に設置している「侵入警戒トラップ」で初誘殺されました。その後のトラップ調査で、令和5年8月末までに南予1地点、中予5地点で誘殺を確認しています。なお、**圃場における果実や葉の被害は、現在まで未確認**です。

本種は南米原産です。2006年にスペインへの侵入が確認されて以降、世界各地に広がり、東南アジア、中国、台湾などで確認され、国内では西日本、東北地域中心に25道県（令和5年8月末）で発生が確認されています。



トラップで捕獲された成虫

成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm



幼虫の形態

幼虫は終齢で約8mm



果実の被害



葉の被害

幼虫、果実・葉の被害写真は、熊本県病害虫防除所提供

- 圃場内をよく見回り、発見次第捕殺します。
- 被害果実・葉は、圃場外に持ち出し、速やかに処分します。